

「あなたは何により頼んでいますか？」

～あなたは健康ですか？～

Ⅲヨハ1：2～4

あなたは今健康ですか？健康とはいったい何でしょうか。私たちは色々なものにすがって生きていこうとします。あなたは何を頼りにして生きているのでしょうか。お金、仕事、人間関係・・・「あの人さえいれば」「こういう環境さえあれば」しかし多くの人がそういったものに裏切られ絶望におちて行ってしまっています。WHOが最近定義した健康とは「身体的、精神的、霊的、社会的に完全に良好な動的状態であり、たんに病的あるいは虚弱でないことでない」とされています。従来のものに『霊的』が付け加えられたのです。（Ⅲヨハ1：2～4）「愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。」（2）数値的には「健康」と言われているからだが弱ってきたのは「内側」（霊）が弱ってきたからです。私たちににとっては「わからない」ということがストレスになります。だから私たちは目に見えるものに頼ろうとしてしまいます。頼って依存し、そしてその結果裏切られるのです。こうなるだろうと思ってもそう行動してもらえない・・・私たちは裏切られ続けているのです。そこに重きをおいていなければそれがストレスになることはありませんが、私たちはそれを頼っているためにそういう状況に置かれることがストレスになって病気になるてしまっているのです。

「兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。」（Ⅲヨハ1：3）私たちが頼るべきものを頼って正しくやっていたら評価されようと思ってやっていたなくても自然と評価されるのです。悪い状況で悪くなるのは誰でも一緒です。しかしヨハネは違いました。自分をののしるものを選び、右の頬をぶつものには左の頬をさします・・・そんなイエス様の道（真理）を歩もうとした、その結果周りの人からなんてすばらしい人なんだろうといわれる人になっていったのです。私たちが目を置いている場所がどこかということが大切です。「鼻で息をする人間をたよりにするな（イザ2：22）しかし私たちは目に見えて自分のことをよく言う人に信頼を置くのが好きなのです。悪く言う人を悪く言い、自分を裏切る人を裏切る・・・最終的に自分の周りを見てみると自分を守ってくれる人は誰もいなくなるのです。みんな自分が愛され裏切られたくない人の集まりだからです。それでいいのでしょうか。目に見える、あなたの隣にいて守ってくれそうな人を頼るのが私たちの目的ではありません。私たちが愛し、わたしたちのために命をかけて、わたしたちの隣にいつもいて人生を導こうとしている人に信頼を置くからこそ、この世の中でどんな状況に会おうとも、それらがすべて益となると言えるのです。裏切る人は確かに問題がありますが、裏切るようなことをしているのは私たち自身です。裏切っている者同士で言っても何の解決にもなりません。でも裏切らなかった人がいるのです。私たちがどんなに裏切ろうとも私たちが赦し、私たちがどのようにすすんだらよいかわきまえ知るために、わたしの道を歩んだといってくれる人がいるのです。私たちの心が苦しみで乱されると、それでもそこに安らぎを与えようとしています。しかし、「もう目に見えるものに頼らない」といながら、頼ってしまうのが私たちです。頼らないと決めたものに重きを置き、また傷ついてしまうのです。だから私たちは傷つく道ではなく、傷つかない道を選ばなくてははいけません。（Ⅱコリ1：8～12）「ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。」（9）パウロはの中で神に頼るといいながら、頼っていなかった自分の弱さに気付いたと言っています。自分自身に頼らないということを学んだのです。パウロは人に神により頼めと伝える人だからこそ、このことを学ぶ必要があったのです。私たちも一緒です。私たちの周りにいる人が私たちを通して幸せになるために私たちはいるのです。私たちが今いるところをまっすぐに受け止めて神様が一緒にいることがわかれば、どんなことが起ころうと関係ありません。私たちが頼っているものを本当に捨てられれば、裏切られてもイエス様のように赦すことができます。そうできるようになれば、人を裏切ることをしなくなります。私たちがしなくてははいけないことは**①自分の力から神様に！！**ダビデはこのことを30年間闘う中で学びました。サウル王から命を狙われたときも自分の方法でやれば勝てました。でもダビデは自分の方法ではしませんでした。あなたは自分の方法ですぐに闘いを挑んでしまいませんか。自分が無力だと知っています。でも自分でやり失敗し、後悔してしまふのです。後悔する人生はやめなくてははいけません。ダビデは後悔する人生をやめたら慈しみと恵みが追ってくる人生になりました。神様は私たちが通った道はよく知っています。そしてその辛いところを通るためにイエス様は十字架に架かったのです。（Ⅰペテ2：4～6）「なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」（6）私たちは苦しみにはあひます。でも失望のあと必ず希望・喜びがあるので失望で終わらないと言っています。自分の中心を神様に委ねることができればあなたはいつのまにか自分の願った姿に変わっていくことができるのです。自分の力でなく、神様に信頼していきましょう。**②あなたの苦しみを神様に！！**神様に（イエス様が私たちのために十字架にかかってくれたことを）信頼して委ねれば苦しみが取られます。神様はあなたの苦しみや痛みを知っていてその上で私を信頼しなさいと言っています。（Ⅰペテ2：19～25）どんなに不当な苦しみにあってもそれでも神様を信頼する人は歩み方を変えません。やられてもやりかえす生き方ではなくその人を祈ることができます。そして「あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。」（25）神様の前にいて私たちは守られています。だからもう傷つくことはありません。神様の前から出て行くから傷つくのです。神様の中から出ていかないで苦しみを打ち明け続けましょう。**③あなたの問題を祈ってもらう！！**そうは言っても私たちは「自分はどうせ一人」と思ってしまいます。だからこそ教会の意味があり、あなたの問題を祈ってもらう必要があります。一人で解決できるなんて思っははいけません。私たちは互いに祈りあうためにいるのです。十字架に向かう途中、イエス様はマリヤに向かってヨハネを指差し「あなたの息子です」といい、ヨハネにはマリヤを指差し「あなたの母です」と言いました。ここに教会ができました。私たちはこの世にあって問題に合いますが、その問題を共に負い合う家族を教会与えました。だから教会は着飾る場所ではありません。ダビデは鎧を脱いで闘ったからこそゴリヤテに勝つことができました。鎧をつけたまま闘えば大変なことになりますが、裸になり心をさらけ出して語り合えば、必ず祈りあう姿が変わっていきます。隣にあなたを愛している人がいることを覚えて置いてください。そして一緒に祈りあっていけば必ず聞かれます。鎧を脱いで、神様に信頼し本当の意味での健康になっていきましょう。（要約者：岩崎 祥誉）